

委員会宣言 (案)

JR 東労組千葉地本は 2 月 27 日、千葉市民会館において第 43 回定期地本委員会を開催した。委員からの実践的な発言により、23 春闘をはじめとする運動方針を、全組合員でたたかい抜いていくことを満場一致で確認した。

職場では生活状況やキャリアプランを全く無視した納得感のない異動が繰り返され、管理者からの心無い言動によって組合員が病欠に追い込まれる事象や、組合員に対する長期的な日勤教育などの問題が発生している。責任追求の会社姿勢や、本人を追い込むような教育・姿勢はハラスメント以外の何物でもなく、断じて許すことは出来ない。そして、千葉では成田駅の見習いを行わず信号扱いを行った事象や、協力会社社員の感電事故など安全と生命が脅かされる事故・事象が後を絶たない。安全軽視の経営姿勢は各職場で現れ、第二の福知山線脱線事故に繋がりがねない異常な状態である。チェック機能である労働組合として、原因究明の姿勢で、組合員の生活と安全を守るためにたたかい抜いていく。

千葉地本は 1000 人組織を目指し、組織強化・拡大に向けてたたかいをつくり出してきた。千葉支部の未加入者へのビラ配りや、野球大会を通じての新規加入、ジョブローテーション異動による孤立をさせないための総対話行動によって、組合員の強化・拡大が前進している。なかでも「加入は 1 人ではなくチームでやるのが重要」という言葉は、教訓として全体で確認し、「組織拡大と要求実現は両輪だ！」を合言葉に、更なるたたかいを推し進めようではないか！

2 月は過半数代表者選挙が各機関で実施されているが、習志野運輸区分会で、休職者への郵送物の遅れや立候補者の所信表明が同封されていないことが、休職者への確認で明らかになった。やり直しを求めたが会社は頑として認めなかった。選挙を軽んじている会社の姿勢は断じて許すことは出来ない！今回、佐倉運輸区分会では信任投票、銚子運輸区分会では勝利し、各営業職場や運輸区で組合員数以上の票を獲得するなど、未加入者の東労組への支持は年々増加している。各分会で総括を行い組織拡大に繋げ、一つでも多くの職場で勝利しよう！

23 春闘は、労働組合の存在意義と真価が問われている。社友会によって支社経営幹部との懇談会の場で低額のベアを要望するなど、一部だけの意見で社内世論を形成しようとしている。賃金交渉が出来るのは労働組合だけだ。相次ぐ光熱費の値上げや、実質賃金が上がらず、業務量の増加や要員不足によって負担が増し、職場からは、「光熱費などの値上げで、このままの賃金では生活は出来ない」「低額回答で良いとする社友会の姿勢には頭に来る」「思ったよりもらえて良かったと思ったことはない」「バス職場でも要員不足による休勤の増加と労働実感に見合わない給与のため、転職希望者が増えている」と、切実な声上がる中で、定期昇給の完全実施とベア 10,000 円（物価上昇、生活向上分を含む）の要求実現を目指していく。経団連はベースアップを中心に積極的な賃上げを呼び掛け、満額回答をしている産業もある一方、JR 東日本は、第 3 四半期決算が 3 期ぶりの黒字転換となるなど支払い能力は十分にあるが、社長の慎重発言や社友会による社内世論の形成によって 23 春闘においても私たちの要求とかけ離れた回答が示されかねない。だからこそ、要求実現のために組織強化・拡大を実現しよう！

ウクライナ侵攻から 1 年が経過した。私たちは憲法 9 条を堅持し、テロにも戦争にも反対を貫いている。千葉地本は安全で平和な未来を切り拓いていくために、福知山脱線事故安全研修や沖縄平和研修を開催し、現地に立つことで信実を見極める目を養い、議論によって一人ひとりが当事者意識を持つ取り組みも強化されてきた。JR 東労組は仲間と共に明るい未来と、誰もが楽しいと思える日常を一日も早く取り戻し、「仲間のために、仲間を支え、仲間と共にたたかう」の精神で、23 春闘勝利！安全哲学の再確立の実現に向けて、全組合員で運動をつくり出していこうではないか！

以上宣言する。

2 0 2 3 年 2 月 2 7 日
東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部
第 4 3 回 定 期 地 本 委 員 会